

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>ホームでの生活における介護理念は確立しているが、地域に根ざした介護理念は出来ていない。</p> <p>管理者と職員で話し合って理念を作成しました。機会があるごとに残存機能の活用を図っている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>基本理念を頭に入れて、実現に取り組んでいる。掲示板が何時でも見られる。基本理念の明確化、提示している。</p> <p>基本理念をすべての職員が理解しているとは思えないが、開設して1年を経て、再度職員と協議して理解し共有できるようにする。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>家族や地域には掲示板で張り出している。又、みていただけるようにしている。</p> <p>家族には配布して理解していただくよう取り組む。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>入居者の顔なじみの方には、何時でも立ち寄っていただけるようにしている。又、気候により外で休憩していると道を歩いている方が挨拶をしてくださる。散歩などでは挨拶するようにしている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>社会福祉協議会のボランティアの方の定期的な訪問を受けている。小学生や高校生の福祉の勉強会や訪問を受けている。小学校を訪問して行事に参加している。保育所の園児の訪問があり、運動会などに参加している。</p> <p>老人会や公民館の行事に参加して、地域のかたと交流を図りたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に無し。		今後地域に役立つことがあれば取り組みたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解していただくように説明して、今後評価を活用して改善をした。		今回初めてで、評価の結果は真摯に受け止め職員一同、よりよいサービスが提供できるようにする。項目の一つ一つを管理者、職員と一緒に協議して利用者の生活の改善に取り組む。
8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、定期的開催しており、その時に伺った意見は、出来ることから改善しサービスの向上に生かしている。		民生委員や老人会の方などに参加していただいて地域に開かれた施設にしたい。
9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に無し。		今後は問題や相談などを緊密に取り、サービスの質の向上を図っていく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について、特に研修は受けていないが、現在必要な方は入居されていないので活用していない。		職員に研修の機会を提供し理解を深めていく。
11	虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などで総合施設長より講義があり研修を受けている。職員間で言動に注意を払い、気の付いたとき改めるようにしている。		職員の言動に注意をし指導をする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特に意見は聞かれていないが、外部者に伝えられる機会はない。管理者は常に現場を把握し利用者の話を聞くようにしている。</p>	<p>今後介護相談員を受け入れることも考えていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時には、生活状態や健康状態を報告をしている。又、状態変化時は、電話で速やかに報告し対応している。金銭管理については、毎月報告し利用料と一緒に引き落としをさせていただいている。</p>	<p>今後職員の異動等も面会時に家族に報告する。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>現在、利用者の苦情はないが、利用者の家族より面会時に希望や相談を受けている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議や部署別会議で職員の意見を聞き、出来ることや出来ないことを話し合っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて柔軟に対応できるように配慮している。職員の確保ができるように職員同士話し合っ て勤務の調整をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限に抑えるように努めている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務の見直しを行い、防火の説明や感染症、身体拘束、事故防止・褥瘡防止委員会委員の説明や研修を受けている。		今後は内部、外部の研修を受ける機会を確保し認知症の理解を深めたい。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設のために職員研修として、他の事業所のグループホームで体験研修を行った。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス軽減は、コミュニケーションを図りながら工夫している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者や職員の個々の努力や勤務状態を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者とコミュニケーションを図りながら、さりげなく話を聞き、安心して生活できるように努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談があれば施設を見学していただきながら、家族が困っていることや不安なことを傾聴し受け止めるよう努力している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時に、必要に応じて他のサービスを紹介している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して職員や他の利用者やその場の雰囲気に慣れていただくように家族と相談し工夫しながら行っている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の出来ることの支援を行い、それぞれに役割を持っていただいています。</p>	<p>洗濯ものを干す、洗濯物をたたむ、茶碗を洗う、シーツを交換する、部屋の掃除をするなど職員と協働している。利用者は積極的に手伝ってくれる。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、利用者の状況や困っていることを説明し、必要時に協力をお願いして一緒に本人を支えていく関係を築いている。		入浴を拒否される方に対して、家族の協力を得ている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	普段から家族の面会も多く、クリスマス会等の行事に家族（子供や夫婦や孫）の方に参加していただき楽しく過ごしている。良い関係が築けている。		昨年のクリスマス会に家族を招待した。利用者の2倍以上の家族が参加され、一緒にゲームやケーキ作りを楽しんでいただきました。今後もこのような機械を増やすように努めたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方の訪問もあるが、高齢な方が多くどうしてもなじみの方との関係が途切れていると思われる方も多い。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握して、一人ひとりが孤立せず、テーブルの着席の配置に配慮し、利用者同士が係わり合い、会話も多く、笑顔も多く見られる。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族から相談があれば何時でも相談に応じている。		必要に応じて連絡や交信に努め、関係性を断ち切らないようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との会話の中から情報を得たり、入所時にご家族から情報を得て、本人本位の介護計画書に反映するようにしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や生活環境等をご本人やご家族から聞き、サービス利用経過等の把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者個々の心身状態を把握して対応し残存機能の活用を図るようにしている。</p>	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所時に家族から希望や課題を聞き、職員の記録や日々の生活状況を把握して介護計画を作成している。本人や家族との話し合いは少ない。</p>	<p>今後は、家族や必要な関係者と話し合い、介護計画書の作成を行う。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月ごとに見直しを行い、状態変化時にも介護計画書を見直している。</p>	<p>利用者の行動や家族の意見を確認し、現状に即した介護計画書が作成できるように努める。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護内容で実施状況や個別記録に記入して、情報の共有を図っている。		「個人介護サービス内容表」「個人記録」「介護記録」を活用して見直しを行うようにしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望で機能訓練が必要な場合は、デイサービスの平行棒等を利用できる。通院ができない利用者に、認知症専門の主治医との協力体制ができています。		主治医が定期的に往診に来られていています。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の気分転換に、クラブ活動を行ったり貝塚社会福祉協議会のボランティアの受け入れを行っている。高校生のボランティアの受け入れも行っている。		
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在希望なく利用していない。		
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	対象者がなく協働していない。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に身体状況を報告し、希望されているかかりつけ医を受診していただいている。家族が困難な場合は施設で対応している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に精神科医の往診があり職員が状況説明して治療が継続できるようにしている。また、通院されるときは家族に状況変化を伝えている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の看護師が1日3回巡回している。状況変化を職員に聞き対応している。緊急時にも対応している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院から家族に相談があり、家族を通して連絡がある。時には病院から直接連絡や相談を受けることもあり柔軟に対応している。		今後は必要時に病院と連携を図っていくように努める。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特にしていない。		終末期については、今後は家族に相談をしたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	寝たきりや立位が困難な重度の利用者に対して、機械浴や座位入浴を行い、施設での生活が継続できるようにしている。救急時の対応については家族と検討している。		今後の変化に備え利用者全員の家族と検討したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	まだまだ不十分で情報交換はできていない。		利用者が戸惑わないように、自然に生活ができるように配慮し情報交換に努めたい・
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けに関してはそのつど注意を促している。個人記録については、その月以外は鍵のかかる場所に保管している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の理解度に合わせて説明し自分で決め納得していただいている。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活状況の中で本人の生活パターンを把握し利用者のペースで生活していただいている。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容や美容は本人が希望すれば自由にいけるようにしている。現在は希望なし。おしゃれに関しても自由にいただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はできないが、お汁を入れたりする作業をしていただいている。コップ洗い等も利用者にしていただいている。		食事の盛り付けなどを利用者の残存能力を活用し行えるようにする。
55 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自己管理ができない利用者に関しては、職員預かりとし適時に渡すようにしている。		
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録を活用して、排便の管理と排尿感覚を把握して気持ちよく排泄ができるように支援して失敗の減少に努めている。		
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	概ね週2回入浴日となっている。本人が希望すれば入浴していただく場合もある。排泄失敗状況などによりシャワー浴で対応している。		
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の体力に応じて休息していただき、本人に確認しながら休息や眠れるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に応じて役割をもっていただき気分転換ができるように支援している。		フラワーアレンジメント・カラオケ・買い物の付き添い・塗り絵・ゲーム・ドライブ・クッキング・園芸・ボランティアの訪問等。気候により散歩をしていただき気分転換に努めている。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理ができる利用者は、外出時や散髪費など支払っていただいている。ほとんどの利用者は金銭管理が困難である。		今後は利用者の買い物に付き添うとき、自分で買い物をしていただき、支払い等も自分でしていただくようにする。
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人が希望すれば、買い物に出かけたり散歩などの支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人や家族と話し合い、要望があれば個別の支援の受け入れや協力の用意はある。ADLの低下されている方が多く困難な方が多い。定期的に外泊や外出されている方もおられる。		定期的に外泊をされる方、定期的に通院をされる方、買い物の付き添う、ドライブなどで出掛ける機会を持つようにしている。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の面会は頻繁にあり、手紙や電話でやり取りをする方が少ない。ADLの低下が見られ希望される方はいないが希望される方がいれば支援する。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人がいつでも訪問していただけるようにしている。本人が公民館で役員をされていたときの知人を家族が同行されたり、訪問して下さる。気軽に訪問していただけるようにしている。		状況によりお茶を提供するようにしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて検討し拘束ゼロを目指し実施。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は本人がかけない限り鍵はしない。日中は玄関の鍵をかけないように取り組んでいる。		
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜とも利用者の所在や様子を把握でき、プライバシーに配慮し安全に生活できるようにしています。構造的にも利用者の行動が把握できる。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要なものは職員の見守りの中で使用していただき、最後に確認し見えないところで保管している。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応マニュアルで職員に周知している。		
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の緊急連絡体制をマニュアル化して職員に周知している。		応急手当や初期対応の訓練を実施する。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の指導にて、防火訓練を年3回消防署員の立会いの下で実施している。施設独自では2階と病院との合同訓練を1回実施している。		3月に夜間非常召集訓練を実施する予定です。地域との協働は今後の課題です。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時に危険について説明し、家族の面会時に身体状況の説明を行い、転倒や誤飲、食欲不振などの危険性を説明している。		説明不足のことが多く詳細に説明できるように努める。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日午前中にバイタル測定や声かけで、異常の早期発見に努め必要に応じて看護師の巡回時に相談をしたり記録に落とし、情報の共有化を図っている。		
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明を個別記録で管理しており、職員はいつでも閲覧できるようにしている。		
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して、水分補給に気配りをし個別に対応している。排便のための体操はしていないが、身体機能の維持を図るために運動を進めている		
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後個別にケアしている。必要に応じて家族と相談をして歯科受診をしていただいている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養のバランスが取れるように計算して食事を提供している。水分量の摂取量を記録し、摂取量の少ない方には本人の嗜好の飲料水を提供するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人として感染症マニュアルがあり、併設職員と合同で看護師の研修を受けている。また、手洗いやうがい及びトイレや手すり等の消毒に努めている。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理関係は委託業者に依頼している。基本的には調理後2時間以内に摂取していただいている。クッキングなどの生鮮食品は当日購入し調理器具の消毒をしている。調理時は職員も利用者もプラスチック手袋を使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	併設施設などの玄関には、プランタンに季節の花を植え、いすとテーブルをおいている。グループホームの入り口は2階にあり、季節に応じて玄関を模様替えしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調整は常に配慮している。お茶碗を洗う音や食事の準備やお掃除などの生活雑音は聞こえてくる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き自由に過ごせるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

残存機能の活用と下肢筋力の維持と向上を図るように努めている